

(東栄町)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 1校、中学校 1校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員		1人
		地域学校協働活動推進員		5人
	CS及び地域学校協働本部設置状況	統括コーディネーター		1人
		地域コーディネーター		1人
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小 1校	中 1校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 1校	中 1校	



(活動の実際) のびのび企画

* 東栄小学校では年間を通じて15時45分一斉下校である。低学年の授業後、会議等のある6限を放課後ととらえ、体験活動を企画。小学校では各学期1回、中学校では年1回開催した。

(目的)

放課後活動の一環として、子供たちがやりたいことを選択し、地域の人たちと一緒に体験活動を楽しむ。

(活動内容)

小学校では1回につき8講座、中学校では5講座を開設した。将棋、お茶、昔の遊び、スポーツ、裁縫、オカリナ、マジック、太極拳、こんにやく作り…できるだけ多くの人にかかわっていただき、CSについても知ってもらいたいと考え、毎回新しい講座を開設した。

(実施までの流れ)

- ① 子供や地域の希望に基づき、開催教室を決定。
- ② 子供にアンケートをとり、参加教室を決定。
- ③ 各講師に参加人数を報告。
- ④ 場所、材料、持ち物の確認、準備
- ⑤ 開催

(◎成果と●課題)

- ◎ 学校施設は利用するが、子供へのアンケート以外はすべてCSで運営するため、学校職員への負担なく実施できている。
- ◎ 実施後のアンケートでは、児童生徒、地域講師共に高い満足度を示している。特に小学生は、地域講師とすぐに打ち解けて活動を楽しんでいる。
- 中学校ではなかなか時間をとることが難しい。今年度は部活動のない平日の下校後、参加の有無も含めてアンケートをとったが、半数の参加にとどまった。魅力ある講座開設と共にねらいの周知の必要性を感じた。
- 生涯学習講座、文化協会、体育協会を皮切りに講師を依頼し、次第に一般の人に広がってきたところである。広く町民から講師となる人材を見つけることが今後の課題である。

(関係者の声)

- ・ 将棋のいろいろな遊び方を知れた。詰みの方法を使って勝てた。もっと将棋が好きになった。(小学生)
- ・ 知らないことを知れた。みんなと競争したり教え合ったり工夫して作ったりして楽しかった。(小学生)
- ・ 前から興味があったことができてよかった。学校では習わないことを深く知ることができた。(中学生)
- ・ 初めてコマを回せた時の表情はステキだった。短時間ながら子供の可能性を感じた。(地域講師)
- ・ 茶道に触れて集中している姿が印象的。日本文化に親しむきっかけになればうれしい。(地域講師)
- ・ 太極拳という活動を知ってもらえることができうれしかった。小学校の空気で若返った。(地域講師)
- ・ 子供の声のない日常生活を送っているの、今日は楽しかった。(地域講師)
- ・ 子供たちのいつもとは違う姿を見られた。先生たちも体験するとういと思った。(教員)